

# 銀漢亭日録



伊藤伊那男

7月17日(水)

▼「知音」の小沢麻結、「天為」の草野晋さん、鈴木琢磨さん。片山辰巳、片山一行父子上京の集い。ざっと二十人集まり。川柳一句ずつ出しての句会。私の句一点も入らず、ムム。「俳句」鈴木編集長四人。村上護先生の息女ふみさんも。発行所「はてな句会」あと七人店への坊城さん他。「三水会」の四人は片山パーティに合流してもらおう。

20日(土)

▼「銀漢亭OH! 納涼句会」三十人集合。私は浴衣で。持ち寄り五句、あと三句、二句、二句と席題句会三回。計四回で十二句。三分の二が他結社の方々であるところが楽しい。踏青子さん群馬から参加。真砂年さん他「未来図」の若手も。

21日(日)

▼朝、整体。夕方、桃子の家。明日から一家沖繩へ。九月に戻って引越にて、この家での最後の会食か……。私も今年から年初にその家に合流の予定。

22日(月)

▼朝妻力さん、ゼロックス時代の仲間との親睦会として上京。「対岸」の方二名。朝妻配下、三代川さん他五名。奥は「銀女句会」と称する女子句会。文子、敦子、肖子（「ホトトギス」）、近恵（「炎環」）、今回、現代俳句協会新人賞受賞）、峯尾文世（「銀化」）、小石（「天為」）、うさぎ、いづみ、展枝、くろえさんなど。片山一行さん夫妻、秋葉男、真一さん。小野寺清人さんが焼そば二十人前位焼く。

23日(火)

▼十一時半、「咸亨酒店」。「萩句会」の暑氣払いの昼食会に招かれる。昼のビール、紹興酒が効いてそのあと店でうたた寝。あと、ひまわり館「萩句会」選句へ。

26日(金)

▼中根さん家の掃除。十一時過、店。製氷機の入替え、冷凍庫の設置など。狭いスペースに入れるので心配に立ち合うことに。「金星句会」終って六人。全体閑散。

27日(土)

▼七時十六分、はやてに乗車。一ノ関も雨。大船渡線が不通にて路線バスにて気仙沼。フェリーにて大島。小野寺清人さんの親戚の農小屋を借りてパーベキューパーティー。総勢十五、六人か。仙台の兄上、信一さんから差入れの大栄螺、「利助」の牛舌など。たなご、かれい、あいなめも。清人さん同級生からの牡蠣を蒸し焼きに。……何とぜいたくなー延々と夕方までパーティーは続き、宿「海鳳」へ移ってすぐ夕食。あと清人さん弟の和入さんの家。鮑、海胆のくんせい!「竹鶴」の十二年と合う。

28日(日)

▼六時超、雨。風呂、作句。七時、朝食。ごはんおかわりして二杯半。八時四十分の連絡船で気仙沼へ。タクシィで、津波の際、陸上に取り残された「第十八共徳丸」を見る。気仙沼プラザホテルにて「第二十五回気仙沼海の俳句全国大会」。前日、皆から集めた義援金五万円を大会委員長・菊田島椿さんへ渡す。黒田杏子さんの講演。十六時前に会場を出てバスにて一ノ関。駅前の居酒屋に入り、新幹線出発までの一時間半ほど酒盛り。車中も延々と酒盛り……。ああ。

29日(月)

▼二十七日付の夕刊を見ると一面に下北沢の茶舗「しもきた茶苑大山」は千八百円のかき氷が四時間待ちで連日売り切れと写真入りで出ている。確か同人、大山かげもとさんの店だ!「湯島句会」のスタッフ慰労会十数名。新しい句会についての意見交換。二十時半に閉めてカラオケへ。十八人程、終電まで。

30日(火)

▼九月号、原稿必死に書き上げる。店、広渡敬雄さん四

8月1日(木)

人。今井先輩……閑散。「澤」（小澤實主宰）八月号の「俳句ホームページを読む」（野澤海芋）で「銀漢」を取り上げてくれる。

2日(金)

▼雨。八時三十七分品川発。名古屋から近鉄特急しまかぜ（最新型の超豪華車輦 備え付けの還宮案内の冊子は宮澤の写真。「崎陽軒」の駅弁開く（これが私の定番）。宇治山田駅にて武田夫妻、朝妻力さんと待合せ。ホテルに荷物を預けてタクシィで二見浦。浜参宮。岩戸屋の製塩作業を見学。電車に戻り、外宮、多賀宮参拝。「せんぐう館」見学。「赤福」の抹茶水うまい! 十八時から「向井の酒」にて夕食。宮澤、イラストレーターの長友啓典さん、出版社の担当者、杏他かれこれ十数名。鰻蒲焼、小海老焼、冷たい茶碗蒸、伊勢海老の開きフライ、刺身……。ああ、何と皆平らげることか! そのあと武田さんと二人、駅前の「驛亭」という店に寄る。亭主から還宮の話色々聞く。

4日(日)

▼六時五十分、バスにてホテル発。御白石持行事へ。河合宮司のはからいで内宮の新御敷地へ白石を奉獻する。同行は長友さん、高井麻巳子さんなど二十人。内宮駐車場にて結団式。我々は「宮四玉」グループ。千七百人はどで白石を乗せた車を「エンヤ! エンヤ!」と曳く。後ろに中村獅童もいたな。新御敷地の還宮のあとは天皇陛下も入れない聖地となる。ただただ涙す。「みたすの湯」で汗を流し「大喜」にて昼食会のあと解散。杏と東京へ戻る。

5日(月)

▼朝、整体（昨日失念し今日に変更）。午後、「春耕同人句会」あと八人程で「炙谷」にて親睦会。あと杉阪さんと吉祥寺の居酒屋。

6日(火)

▼「銀漢」九月号の校正。朝から昼までかかる。「火の会」（朝比古、うさぎ、卓、冬真、敬雄、大和、小石、峯尾、敦子）。国会議員のT先生。環順子さん京都の染織家の方と。あと「火の会」メンバー七人程でショットパ。

7日(水)

▼発行所「ささらぎ句会」あと七人。ひまわり館「宙句会」あと八人。堀切君の送別会と。森羽久衣さんが室戸岬の鯨の刺身を手配。カウンター横に本棚。厨房に棚を設置。志峯さんの手配。

8日(木)

▼発行所「草樹」環さん句会五人。終って店で親睦会。「俳句界」の林誠司編集長が合流。発行所「十六夜句会」あと八名。

9日(金)

▼今日は村田脩先生の命日。区の健康診断を受ける。血圧百三十八、八十二にて「まあいいでしょう」と。家で計ると百六十出たりするのに! 一体? 発行所「野村句会」。終って店に四人。編集部最終校正と編集会議のあと堀切克洋君の渡仏壮行会十人程。酒が相当な勢いですすみ、禪次さんが「壮行二句出し句会!」と短冊を配り、一般のお客も巻き込んだ句会となる。

10日(土)

▼十時、運営委員会。あと喫茶店で作句。十三時より、ひまわり館にて「本部句会」。暑い中四十八名出席。終って「庄屋」にて親睦会。暑い一日。

12日(月)

▼ともかく暑い日が続く。店、開いてはみたものの、やはり盆休みでダメ。二十一時半、閉めて餃子屋。早々に帰る。